

群 教 セ	E03 - 03
	平 17.227 集

# 確かな視点で主体的に 企業を選ぶための指導の工夫

— 進路指導部による個別面談を通して —

特別研修員 吉澤 幸高 (群馬県立大泉高等学校)

## 《研究の概要》

本研究は、高校を卒業して就職を希望する生徒が、自らの確かな視点で就職先の企業を選択できるようになることを目指した研究である。進路指導室の利用を促進した上で、進路適性検査の診断結果と『見学企業検討シート』を利用した個別面談を実施することによって、生徒が自らの職業適性や長所を十分に理解し、また複数の企業の特色や労働条件を比較、検討して、就職先の企業を選択できるようになることを明らかにしようとしたものである。

**キーワード** 【進路指導(室) 就職指導 個別面談 進路適性検査 見学企業検討シート】

## I 主題設定の理由

近年、雇用形態が従来の正社員からパート、派遣、契約社員などに多様化、複雑化しており、高校生の就職後3年以内の離職率は約50%に上っている。またフリーターやニートが増加し全国的にも社会問題になっている。

このような厳しい情勢下、本校においても就職を希望する生徒(50名前後)のうち数名が進路未決定のまま卒業する状態が続いてしまっている。また、就職先が決まり卒業した生徒のなかには、職場や仕事内容に対して自分で抱いていた想像と現実とのギャップにとまどい、早期離職に至ってしまう者も多数いると思われる。

こういった問題の原因としては、生徒が事前に就職先企業の情報を十分に得ていないこと、企業の特徴や採用条件等を他社と比較・検討していないことが考えられる。また、求人の受付が始まってから受験企業が決定するまでが二ヶ月足らずという非常に短期間であるため、一生働くかもしれない職場であるにもかかわらず安易な気持ちで選んでしまったり、教員や親の勧めに従った受け身の姿勢のまま決めていることも考えられる。

そこで、就職希望者にとっては極めて重要なこの短い期間を計画的に過ごし、生徒自らが将来の職業、職場を確かな視点に基づき主体的に選択できるようにするための指導が必要であると考えた。

本研究では、現在十分に活用されていない進路指導室の利用を促進し、進路適性検査や『見学企業検討シート』を取り入れた個別面談を実施する

ことにより、就職希望生徒の進路に対する関心を高め、また自己理解と企業理解を深めていく。これらの活動を通じて、職業や職場を確かな視点に基づいて主体的に選択できるようになれば、生徒は就職後も充実した生活を送ることができ、前述したような進路未決定や早期離職といった課題の解決につながると考え、本研究の主題を設定した。

## II 研究のねらい

進路指導室を整備して生徒の進路意識を向上させるとともに、進路適性検査を取り入れた個別面談と『見学企業検討シート』を利用した個別面談を実施する。これらの活動を計画的に行うことにより、生徒が自らの職業や職場を確かな視点に基づいて主体的に選択できるようになることを明らかにする。

## III 研究の見通し

1 進路情報を整理し、進路指導室の利用を促進することによって、生徒は自分の進路に関心をもち、進路実現のために積極的に情報を収集しようとするようになるであろう。

2 進路指導部で行う個別面談において、進路適性検査を取り入れ、自分の職業適性を考えさせれば、生徒は自分の長所、適性を理解し、それにあつた職業を選択しようとするようになるであろう。

3 進路指導部で行う個別面談において、給料や勤務時間等の諸条件を記入した『見学企業検討シート』を利用することによって、生徒は卒業後の職業、職場を確かな視点に基づき主体的な選択ができるであろう。

#### IV 研究の内容

##### 1 基本的な考え方

###### (1) 「確かな視点」とは

本校に寄せられる 100 件あまりの求人から自分に最適のものを選ぶためには、様々な労働条件の中で何を基準に企業を選ぶのかを明確にしておくなければならない。そのためには、自らの職業適性を踏まえたうえで、企業を選ぶ時の判断基準を自分なりに決めておくことが必要となる。本研究における「確かな視点」とは、このような企業選びにおける自分なりのこだわり、または明確な判断基準のことである。

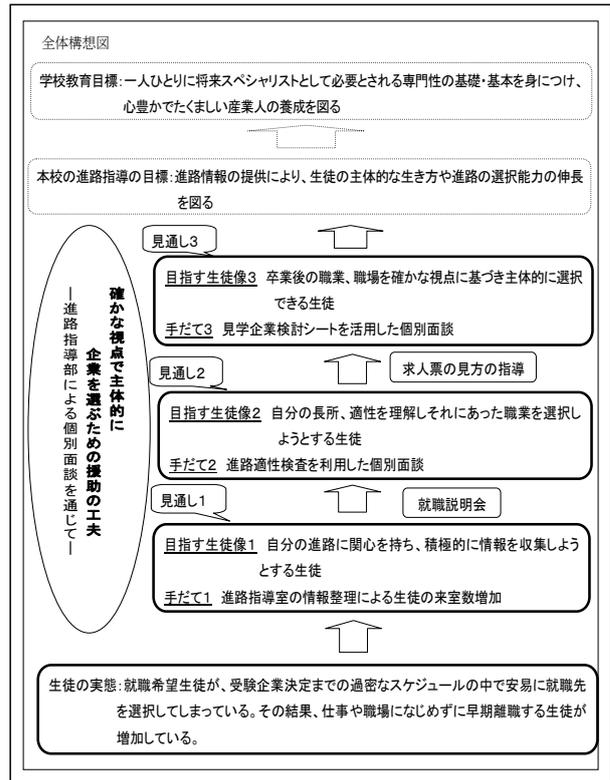
###### (2) 「主体的な選択」とは

企業を選ぶ際に、教員や親の意見だけに頼らずに自分の職業適性や自分なりの「確かな視点」に基づいて自らの進路を決定することであると考える。

###### (3) 『見学企業検討シート』とは

生徒が複数の企業の求人票に掲載されている諸条件（給料、勤務時間、福利厚生など）を整理するために、これらの情報を簡潔に記入できるようになっている。またこのシートには、生徒がどの条件を特に重視するかを記入する。記入したシートを利用し、生徒が複数の企業を比較・検討した上で個別面談を実施する。

##### (3) 全体構想図



#### 2 実践の概要及び結果と考察

表1 実践の経過

	生徒の就職活動	学校の指導	本研究における実践
5月			実践1 進路指導室の整理による生徒の来室数増加
6月		就職説明会	実践2 進路適性検査を利用した個別面談
7月	求人票閲覧 見学企業の決定	求人票公開 見学企業の調整	実践3 見学企業検討シートを活用した個別面談
8月	企業見学の実施	就職調整会議	
9月	面接練習 就職試験	面接指導	

(1) 進路情報を整理し、進路指導室の利用を促進することによって、生徒は自分の進路に関心を持ち、進路実現のために積極的に情報を収集しようとするようになったか（見通し1）

###### ア 実践の概要

進路指導室の進路情報の分類に当たっては、使用目的や頻度、学年別などの観点から下記のように分類し直し、整理する。

① 学校案内：生徒が希望する分野の数校を比較・検討しやすいように、校種・学部や地域別

に分類し、棚やファイリングボックスに整理する。

- ② 進学情報誌：宣伝が多く含まれているものもあるので、内容を良く検討し信頼度の高いものを生徒に提供できるようにする。
- ③ 学校紹介ビデオ：テレビ、ビデオを設置し、その場で見られるようにする。
- ④ 指定校推薦の一覧表を掲示する。
- ⑤ 企業案内：地区別、職種別に分類し、色分けをして棚やファイリングボックスに整理する。  
(資料3)
- ⑥ 求人票：地区別（県内、埼玉・栃木、東京、その他）に分けて整理する。また、内容をまとめ、求人一覧表として掲示する。
- ⑦ パソコンを整備し、生徒がインターネットを通じて進路情報を収集できるようにする。
- ⑧ 「進路だより」を生徒に配布し、進路指導室に気軽に足を運びこと、進路実現のために必要な情報を自分から積極的に手に入れるようにすることを訴える。

#### イ 結果と考察

進路指導室への3年生の来室数は4月には1日2～3人であったが、資料や情報を整理し、「進路だより」などを通じて進路指導室の利用を呼びかけところ、実践終了後の7月には1日10～20人ほどの来室数に増加した。

#### 資料1 生徒の感想

- ・前よりも会社のパンフレットとかのある場所が分かりやすくなった。  
(男子)
- ・友達と一緒に初めて行ってみた。行きたい学校の案内があったから見たら、授業料が高くてびっくりした。(女子)
- ・休み時間に行ってみたら進路系の先生がいて、相談このつてくれた。  
(女子)
- ・前は行っても閉まっていることがあったけど、この前行ったらパソコンも使えて良かった。(女子)
- ・インターネットでオープンキャンパスの日程を調べた。夏休みに行きたいと思う。(女子)

また、来室した生徒に話を聞いたところ、資料1のように「以前よりも資料が整理され進路情報を手しやすくなったので、自分が進学を希望する学校（または就職を希望する企業）について詳しく調べ、知ることができた」という内容の感想を得ることができた。

#### 資料2 アンケート結果(3年生対象)

問1. 以前と比べて進路指導室を訪れる回数が・・・	
A増えた・・・48%	B減った・・・10%
Cあまり変わらない・・・42%	
問2. (問1でAと答えた生徒へ) 自分の進路について考えることが・・・	
A増えた・・・72%	B減った・・・3%
Cあまり変わらない・・・25%	

資料2のアンケート結果から分かるように、進路指導室の情報を整理し、利用を促したことによって、半数近くの生徒が進路指導室を訪れる機会が増加し、そのうち7割の生徒が「進路について考えることが増えた」と答えた。この結果から、多くの生徒が自分の進路に対する関心を高め、それを実現するために積極的に情報を収集しようとするようになったことが分かる。

また、アンケートで問1、問2ともに「あまり変わらない」と答えた生徒が予想より多かったが、これらの生徒も3年の夏休み頃には自分の進路について真剣に考えるようになった。進路実現に向けた情報収集にはなるべく早く取り組むべきことであると再認識し、今後は生徒が1、2年次から進路指導室を有効に利用し、それぞれの進路意識を高めていけるよう、進路指導室の情報整理と利用促進に継続的に取り組む必要があると考える。

(2) 進路適性検査等を利用しながら、就職希望生徒に個別面談を実施し、自分に合った仕事を見つけさせることによって、生徒は自分の長所、適性を理解しそれにあつた職業を選択しようとするようになったか(見通し2)

#### ア 実践の概要

就職希望者の個別面談の際に、4月に実施した進路適性検査の結果を振り返ることによって、生徒が自らの職業適性を考えるきっかけとすることをねらつたものである。検査の結果、希望している職業への適性が高いと診断される場合もあるが、一方で予想に反して意外な職業に適性が高いと診断される場合や、就職を考えている職業への適性が低く判定されることもありうる。いずれの場合にも、進路適性検査を面談に取り入れることによって、生徒が自分の職業適性を考え、数ヵ月後に迫つた職業選択に向けて真剣に考え始める契機になると考えた。

## イ 結果と考察

「進路適性検査」を実施した結果、就職については80種類に及ぶ職業の「職業別適性度・志向度」が棒グラフ状に判定されていた。この検査結果をもとに個別面談を実施した結果、適性度が高いと判定された職業が自分の希望していたものと一致し、その分野への就職の意志を固める生徒が多かった。その一方で、事務職が第一希望であるが、診断結果を元にもう一度自分の適性について考え直し、新たに製造業への就職を視野に入れるという内容の相談を多く受けた。代表的なものとして抽出生徒A子とB男の面談時の感想は以下のようであった（資料3、4）。

### 資料3 A子の感想(1)

私は1年生の時から将来は事務の仕事をやりたいと思っていました。進路適性検査では「実務を着実に進める仕事」の適性が良かったので、一般事務か経理とかの仕事がいいかなと思いました。でも「精巧な技術を生かす仕事」も結構良かったので、工場で働くのなら求人もたくさんあると聞いたし、どっちがいいか迷ってます。

面談で先生と話して「事務職に適性があるし、本人がどうしてもやりたいなら事務の仕事を探した方が良い」と言われたので、事務の仕事を探したいです。

A子は入学時から就職を希望しており、事務職を強く希望していた。しかし、本校への女子の求人依頼は製造業や販売業が多く、事務職への就職は狭き門であることをA子は知っていたので、他の職種にするべきか迷っていた。今回の実践で進路適性検査を利用した面談を受け、検査結果や教員の助言により事務職への適性が高いことに自信を持ったA子は、事務職への就職希望の意志を固めることができた。（資料4）

### 資料4 B男の感想(1)

〇〇製作所に就職したいと思っていたけど、検査では「精巧な技術をいかす仕事」が向いてるって書いてあったから良かった。（中略）

将来は〇〇製作所で自動車関係の部品を作りたい。

進路実現に向け、以前より勉強や部活動に積極に取り組んでいたB男は、進路適性検査で「精巧な技術をいかす仕事」の適性度が「高領域」に判定されていた。その適性を生かす仕事として、面

談で自動車製造業の〇〇製作所の受験希望を述べるなど、B男は更に意欲的に就職活動に取り組むようになった。

以上のように、2名の抽出生徒の感想や他生徒の様子から、進路適性検査を取り入れた個別面談は、生徒が自らの長所や適性を踏まえた上で、就職する職業を考えるのに効果的であったと考える。

(3) 見学企業検討シートを活用した個別面談によって、生徒は職業選択に必要な情報を収集し、自分の条件に見合った職業・職場を選択できるようになったか（見通し3）

#### ア 実践の概要

7月に入ると企業からの求人の受付が始まる。求人票や企業案内を見た生徒は、自分が気に入った数社の見学を行い、その後9月から実施される就職試験で自分が受験する企業を決定する。見学した数社の企業の中から受験企業を選択することは、見学企業を決定する時点で自分が受験する企業が数社に絞られることを意味している。そこで、見学企業を決定する直前の夏期休業中に進路指導部で個別面談を実施することにした。

この個別面談の際には、最初に『見学企業検討シート』に自分の条件に合ったいくつかの企業についての諸条件（給料、労働時間、休日、福利厚生など）を記入させる。次に、記入された数社分のシートを元に自分がどの条件（給料、労働時間、休日、福利厚生など）を重視して企業を決定するのかを聞き、アドバイスをしながら個別面談を実施する。この時、教員は生徒自身の考えを重視し、生徒が自らの考えで見学する企業を決定できるように助言をするよう、留意した。

#### イ 結果と考察

事前に渡しておいたシートに、希望する企業の情報を記入してから面談に臨む生徒は半数ほどであった。それらの生徒は、要点を絞って話を進めることができたので、面談をスムーズかつ効率的に行うことができた。また、生徒にアンケートを実施したところ、見学企業の決定にあたり『見学企業検討シート』が「大変役に立った」あるいは「役に立った」と答えた生徒は合わせて半数以上に上った。また、A子は次のように感想を書いた。

資料5 A子の感想 (2)

事務の求人はやっぱり少なかったの、事務の2社と製造の丙社の求人票を調べて『見学企業検討シート』に書いた。事務の甲社は土日が休みで乙社は日曜しか休みが無いから、給料は少し安いけど甲社を受けたいと思う。工場の丙社は残業が多そうだし、ボーナスが少ないから甲社がいいな。

面談では先生に「ワープロも得意だし、パソコンもできるから事務をやってみたら」と言われたので、1人しか採らないから大変だろうけど甲社を受けた

資料5のように、念のために製造業の丙社についても情報を調べてシートに記入していたA子であったが、職業適性が高かったことやワープロ検定を取得していて事務職への希望が強いことなどから甲社と乙社について、比較・検討しながら面談を実施した(資料6、7)。その結果、A子は同じ事務職の中で、賃金は劣るものの、休日や福利厚生面などの条件を重視し、それらで上回る甲社を第一希望とすることとなった。

募集人員が少ない事務職へ応募することには、A子本人もなかなか決断がつかなかったが、じっくりと話し合った結果、最終的には本人の意志で甲社を受験するという決定に至った。

資料6 A子の『見学企業検討シート』その1(甲社)

見学企業検討シート		
クラス	氏名	求人票番号
1 企業名	企業名	
2 就業場所	住所 <b>大泉町</b>	
	通勤時間 <b>30分</b>	
3 職種	職種 <b>事務職</b>	
	作業内容 <b>伝票の整理や管理・電話・入力</b>	
4 就業時間・休日等	就業時間 <b>8時 00分~ 4時 30分</b>	
	休憩時間 計 <b>45分</b>	
	交代制 (あり・なし) <b>(なし)</b>	
	残業 月平均 <b>10時間</b>	
	休日 <b>月曜 土曜(月2・3回)</b>	
	週休2日制 (あり・なし) <b>(あり)</b>	
	有給休暇 (最高 <b>1</b> 年換 <b>20</b> 日)	
5 賃金	基本給 <b>195000円</b>	
	手取額 <b>126027円</b>	
	ボーナス (一般労働者の昨年年度末額 年 <b>2</b> 回、合計 <b>9.6ヶ月分</b> )	
6 福利厚生	加入保険 <b>健康 厚生 雇用 労災 退職金 共済 数割</b>	
7 選考方法	選考方法 <b>学科 作文 面接</b>	
8 求人数	求人数 <b>1人</b>	
9 本校指定か否か	指定 (指定・指定以外) <b>(指定)</b>	
自分の印象	<b>事務で土日休みなのでいい。加入保険もよく求人が少ないのが不安。</b>	
保護者の意見	定めては企業、おでろでいい感じはする。	

資料7 A子の『見学企業検討シート』その2(乙社)

見学企業検討シート		
クラス	氏名	求人票番号
1 企業名	企業名	
2 就業場所	住所 <b>大泉町</b>	
	通勤時間 <b>30分</b>	
3 職種	職種 <b>一般事務</b>	
	作業内容 <b>伝票の整理や管理・電話・入力</b>	
4 就業時間・休日等	就業時間 <b>8時 00分~ 4時 55分</b>	
	休憩時間 計 <b>55分</b>	
	交代制 (あり・なし) <b>(なし)</b>	
	残業 月平均 <b>10-25時間</b>	
	休日 <b>月曜 土曜(月2・3回)</b>	
	週休2日制 (あり・なし) <b>(あり)</b>	
	有給休暇 (最高 <b>6.5</b> 年換 <b>20</b> 日)	
5 賃金	基本給 <b>153000円</b>	
	手取額 <b>126326円</b>	
	ボーナス (一般労働者の昨年年度末額 年 <b>2</b> 回、合計 <b>9.6ヶ月分</b> )	
6 福利厚生	加入保険 <b>健康 厚生 雇用 労災 退職金 共済 数割</b>	
7 選考方法	選考方法 <b>学科 作文 面接</b>	
8 求人数	求人数 <b>1人</b>	
9 本校指定か否か	指定 (指定・指定以外) <b>(指定)</b>	
自分の印象	<b>土曜休みじゃないのが嫌。残業も多そう。</b>	
保護者の意見	定から近くて良いと思うが、残業が多いのは嫌。	

また、B男は次のような感想を述べた。

資料8 B男の感想 (2)

〇〇製作所が第一希望だけど、学校で1人しか受けられないから第二希望で××工業も調べた。手取り額は少ないけど、ボーナスが多くて、有給休暇も多いからけっこういいと思った。

面談では先生に〇〇製作所だけでなく、××工業の企業見学に行くように言われた。夏休みに両方見学して、どっちかを受けたいと思う。

当初、B男は〇〇製作所を受験することしか眼中になく、他社を見学することに抵抗感を示していた。しかし、校内選考に漏れてしまう可能性もあり、また他社と比較することにより一層〇〇製作所の良さが分かるかもしれないと考え、第二希望の××工業についても調べるよう指導した。この2社について『見学企業検討シート』に記入(資料9、10)させ、面談を行った。B男は同業種であっても就業時間、交代制の有無、加入保険などに様々な違いがあることを知り、就職する企業を選択するには、それらの条件を総合的に判断しなければならないことが分かったようである。

資料9 B男の『見学企業検討シート』その1  
(〇〇製作所)

見学企業検討シート		
クラス	氏名	求人番号
1 企業名	企業名	
2 就業場所	住所 群馬県太田市	
3 職種	職種 技能職	
	作業内容 車のアルス、ボディー組立	
4 就業時間・休日等	就業時間 交代制 8時 80分～ 5時00	
	休憩時間 計 55分	
	交代制 (夜)・昼	
	残業 月平均 20時間	
	休日 日曜	
	週休2日制 (夜)・昼 (会社カレンダー参照)	
5 賃金	基本給 157,000	
	手取額 140,361	
	ボーナス (一般労働者の標準年間 2 月、合計 5ヶ月分) +5%	
6 福利厚生	加入保険 健康・厚生・雇用・労災・退職金・住宅・財形	
7 選考方法	選考方法 専門試験 面接 適性検査	
8 求人数	求人数 70人	
9 本校指定か否か	指定 (指定・指定で好き)	
自分の印象	ボ-ナ-がすごい! 大企業だから安心	
10 保護者の意見		
11		

資料10 B男の『見学企業検討シート』その2  
(××工業)

見学企業検討シート		
クラス	氏名	求人番号
1 企業名	企業名	
2 就業場所	住所 群馬県太田市	
3 職種	職種 技能職	
	作業内容 自動車部品の組立	
4 就業時間・休日等	就業時間 交代制 8時 80分～ 5時	
	休憩時間 計 60分	
	交代制 (夜)・昼	
	残業 月平均 20時間	
	休日 日・祝・土	
	週休2日制 (夜)・昼	
5 賃金	基本給 155,240	
	手取額 133,316	
	ボーナス (一般労働者の標準年間 2 月、合計 4ヶ月分)	
6 福利厚生	加入保険 健康・厚生・雇用・労災・退職金・住宅・財形	
7 選考方法	選考方法 専門試験 作文 面接 適性検査	
8 求人数	求人数 51人	
9 本校指定か否か	指定 (指定・指定で好き)	
自分の印象	給料がいいけど 残業が多い。	
10 保護者の意見		
11		

以上のように抽出生徒A子、B男は『見学企業検討シート』を利用した個別面談を通じ、それぞれが見学または受験する企業を自ら決定することができた。また、企業を選択する視点についても、作業内容、給料、休日などの諸条件から総合的に判断できるようになった。

これらのことから、『見学企業検討シート』を取り入れた個別面談は、生徒が卒業後の職業、職場を確かな視点に基づき主体的に選択するのに

有効であったと考える。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

進路指導室の情報を整理し、生徒の進路意識を高めるといふねらいについては一定の成果が見られた。また、進路適性検査の結果をもとに、進路指導係が面談を行うことは、生徒が今まで気づかなかった職業適性や長所、個性に気付くことができる点において効果的であった。特に『見学企業検討シート』を活用した面談では複数の企業を比較して自分に合った就職先を検討することができ、情報収集が苦手な生徒や進路に迷いがある生徒が、自分なりの視点で責任をもって就職企業を決定する上で有効であったと考える。

### 2 今後の課題

高校生の就職活動は3年生の1学期から夏休みの時期にピークを迎える。進学希望者と比べて進路決定までの期間が短いことから、今回実践したような個別面談をなるべく早い段階で実施する必要があると感じた。また、進路に対する意識を1、2年次から高めさせ、各自の進路実現につなげるためには、進路指導室の利用を更に促進させる方を工夫し、いかに実践していくかが課題である。

### <参考文献>

- 『キャリアガイダンス最新ノウハウブック 2004.9』 リクルート
- 『進路ジャーナル 2003 Winter』 実務教育出版
- 『New 進路適性診断 Best Way 21』 東京書籍

(担当指導主事 中西 信之)